

令和4年度 第3回宝達志水町文化財保護審議会 議事録

日 時：令和5年3月7日（火） 午後3時30分～午後4時30分
場 所：宝達志水町埋蔵文化財センター 2階 研修室

出席者

委 員：出倉委員、村上委員、山岸委員、秋田委員、末森委員、金山委員
事務局：細江教育長、宮本課長、竹森主事、麦居主事

次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 議 題
 - (1) 令和4年度文化財保護事業報告について
 - (2) 令和5年度 能登文化財保護連絡協議会について
- 5 その他
- 6 閉会のあいさつ（副会長）

議事録

（令和4年度文化財保護事業報告について）

秋 田：入場者数が、岡部家と喜多家で大きく異なっています。その理由はなんですか。

事務局：一つは、喜多家の場合は観光バスが入れることが挙げられます。岡部家は、国道から駐車場に入るまでの道幅が狭く、観光バスが通れない。中型バス(マイクロバス)でも、慣れていない人でないと通るのは難しい。もう一つは、喜多家はのと里山海道の米出ICに近く、観光ルートを考える上で都合の良い場所にあることです。文化財としての意味合いは喜多家も岡部家もほとんど変わりませんが、観光会社からすると、喜多家の方が立地条件が非常に良いということもあって、これだけの差が出ているものと思います。

秋 田：能文連(能登文化財保護連絡協議会、以下「能文連」と表記)で岡部家を巡視した際に宝達金山の古文書が(展示して)ありました。(宝達金山を

含む押水地区は)喜多家が管轄していると思っていましたので、なぜ岡部家に(宝達金山に関する古文書が)あるのかと疑問に思っていました…。

事務局：岡部家は押水組の十村をつとめていました。江戸時代の中期頃から岡部家の十村としての活動が見えます。もちろん、喜多家も押水組の十村をつとめた時期があります。

村 上：押水地域は、江戸時代初期には十村のいない空白地帯です。『加能郷土辞彙』にしか見えないのですが、前田家がこの地域を支配した初期の頃に「押水一揆」というのがあったため十村はいませんでした。なので、喜多家が十村として見えるのは江戸時代の後期から末期になります。岡部家と喜多家のどちらが歴史的に価値が高いかと言われると悩ましいところですが、ただ立地条件としては喜多家の方に観光客、特に団体旅行客が集まりやすい環境にある。

事務局：同じ旅行会社の支部同士で同じ時間に予約があり、ダブルブッキングするということもありました。多い時は1日に60人から70人も来ますので、かなり人数が増えることになります。その影響は大きいです。

村 上：かほく市で耕地整理が始まりました。宝達志水町でもし岡部家のあたりで耕地整理をすることになった際には大型バスが入れるくらいの道にしていだければと思います。岡部家のために道を付けることは難しい話かもしれませんが、何かの機会に大きな道を付けることができれば、岡部家にも日が当たるものと思われれます。耕地整理があればぜひ働きかけてみてはいかがかでしょうか。

秋 田：国指定と県指定では、なんとなく国指定の方が上のような気がします。しかし、実際に岡部家を訪ねてみると、喜多家と変わらない気がしました。資料がある分、岡部家の方が地域のもので残っている気がしました。そうした資料から宝達志水町の歴史を町民に分かりやすく示すことができると思います。

村 上：岡部家の植栽について、塀の代わりに植えたのは良かったと思います。しかし、塀の基礎にあたるコンクリート部分に鉄棒が出ています。危ないと思いますので撤去していただければと思います。また、植栽シート

の部分にもツツジを植えるなどして見た目を良くしてほしい。

末 森：喜多家表門の葺き替えや倉の修繕について、文建協(文化財建造物保存技術協会、以下「文建協」と表記)からは、まだ大丈夫という話ということですが…。

事務局：まだ大丈夫ではないか、ということですが、このままではいけないと思っています。部分解体修理から20年が経っており、表門茅葺き屋根も葺き替えの時期が近付いていると思います。葺き替えしないことで、屋根から樹木が生えてきて表門の構造自体にも影響が出ると、さらに予算が増えることになるかもしれない。そうなる困るので、早めに葺き替えたいと思っています。

出 倉：喜多家に関する重要な問題ですので、繰り返し、文建協に話をしようお願いします。

秋 田：喜多家の表門や道具倉、味噌倉に看板等を立てていますか。観光客が来れば主屋だけでなく、周辺の自然も見つつ、道具倉・味噌倉にも足を運ぶかたちにしてみてはと思いますが…。

事務局：表門側から見ますと、道具倉と味噌倉は主屋の後ろにあります。看板自体も倉の前に立っていますので、主屋を見学するだけだと、倉の存在には気付きにくいと思います。今後どのように案内していくかは考えていかなければならないと思っています。

末 森：回遊式に見て回れば良いと思いますが、時間が限られている団体旅行ではうまく回らないと思います。

出 倉：喜多家に観光客を迎える上で様々な課題が出てきました。事務方で改善策等ご検討いただければと思います。

(国民文化祭について)

村 上：(チラシを見ると)押水のものばかりに見えますが…。

事務局：国民文化祭のテーマが「いざ！末森ものがたり」ということなので…。

村 上：(散田金谷古墳など志雄地区の)古墳を入れるとテーマがぼやけてしまうので仕方がないとは思いますが、これを機会に、前田利家が能登に入部して最初に入った菅原を取り上げて、志雄の人に配慮しても良いと思います。ところで、菅原神社に行くときバスの駐車場はどうなっていますか。

事務局：文化振興の係で手配していると思います。

村 上：地元の人々の理解も必要になると思います。その際には、単に「菅原神社」と書くのではなくて、「前田利家が最初に入部した」みたいな(キャッチフレーズを付けるなどして)、地元の人々も目を引くような配慮をすべきだと思います。

秋 田：国民文化祭はどこが担当しているのですか。

事務局：町の方では教育委員会生涯学習課が担当ということになりますが、もっと細かく言いますと、町の実行委員会がありまして、そこが主催となります。文化財係としては、岡部家を会場として貸し出すことと、埋蔵文化財センター内で企画展を開催するかたちでかかわることになります。

村 上：菅原の会館にバスを止めて、そこから菅原神社まで歩かなければならない。だから、ただ歩くのではなくて、菅原について説明しながら誘導した方がよいと思います。利家が能登に入部して最初に菅原に入ったことは間違いないので、菅原の地形を見せるなどすれば、地元の人々も納得してくれると思う。狭い土地に多くの家が現在も建っているのは、かつて前田利家が最初に入った場所で価値があったためでしょうから。

事務局：駐車場など物理的な物は間に合わないかもしれませんが、対応してみたいと思います。

秋 田：末森合戦というと前田と佐々との合戦として知られています。しかし、戦場になった地域の様子はほとんど聞かない。宝達に「コデラ」という山があります。話によると、山崎の山手の方に「チョウセイボウ」など7つの大きな僧坊があり、宝達山を霊山として山伏たちが祈っていた。それが、末森合戦によって焼けてしまい、その後、再建されることがなかったと言います。そうすると、宝達周辺まで戦火が及んでいたという

ことになります。その年には宝達金山が開山した年でもあり、その戦火を目の当たりにしていたはずですが、しかし、押水郷の人々がどんな被害にあっていたのか、我々の先祖が末森合戦をどう見ていたのか、分かるようであれば、どこかで示していただけだと思います。

出 倉：これに関しては、旧志雄町の山手でも様々な事例を聞いております。それらを掘り下げていくと面白いかと思えます。もし配慮していただけるならば、もう少し資料作りにも手を掛けていただければと思います。また配慮の程よろしく願いいたします。

(意見交換)

出 倉：各集落には、それぞれ物語や口伝など様々なものがございまして、山手には、おみつ地蔵、原御前、坊の存在など、様々なエピソードがございまして、山手に眠っている様々な口伝、文化財的なものを、何らかの機会に掘り起こすような予算措置などがとれないものか。そうしないと消えていってしまうような気がします。あの人が生きていたときに話を聞いておけばよかったですと…後悔ばかりです。

秋 田：私も同じように思います。

村 上：担当者が数人しかいないので、事務仕事も抱えている町としては難しいと思います。我々文化財保護審議会の委員が、知っている口伝等を文章化して、この場で諮って残していけばいいと思います。いずれ新しい町史を作らなければならないのは確かです。ここに集まっている人たちは学術に造詣の深い方々ですから、我々がまとめていくしかないと思います。口伝等は我々がまとめて、この場で諮って、町にまとめてもらえばよいと思います。また、先ほど話にもありましたが、こうした機会には押水と志雄のバランスも考えていかなければならないと思います。前田利家ゆかりの地としては押水の末森城跡と志雄の菅原は同等の意味を持つものです。こうしたバランスを大事にしていかなければならないと思います。

出 倉：口伝等を我々の方で出来る限り集めて、町にまとめていただくという大きな意見です。我々も住んでいる集落に関しては、一度ピックアップし、一覧表にした上で話をする。場合によっては現地に行って調査をする

というのはいかがでしょうか。

村 上：最後に事務局に一つ、村御印はどうになりましたか。

事務局：所在が確認できるもので、指定をしたものが9か所あります。

村 上：所在は毎年確認しておかなければならない。それは町にしかできないことです。区長の交代ペースが早まっていますので、交代の際に区有文書について確認するようシステム化しておいた方がよいかと思います。